

1 研究主題

学び合い、伝え合いながら学びを高める子どもの育成 ～子どもの見取りと教師の働きかけの有機的なつながりをもとに～

2 求める子どもの姿

「ひと・もの・こと」とかかわって学ぶことで新たなものを見出す面白さを感じながら、その中での気づきや考えを相手に伝わるように話したり、進んで聞いたりして、気づきの質や学びの質を高めていくことができる子ども

3 研究主題についての基本的な考え方

- (1) 「学び合い」…「ひと・もの・こと」とかかわり、活動する中で共に新たなものを見いだす学び、またはその過程。
- (2) 「伝え合い」…気づきや考えなどを、同じ空間で学ぶ相手に伝わるように話したり、分かろうとして聞いたりすること。
- (3) 「学びを高める」…驚きや発見としての気づきが、自分自身の認識や友だちとの共有の認識として高まること。また、課題解決の過程で、考えが更新されたり、考え方が広がったりすること。
- (4) 「子どもの見取り」…目の前で起きている事実のみならず、前後の言動や学習対象とのかかわり、家庭での生活体験などを関連させ、子どもの姿として捉えること。
- (5) 「教師の働きかけ」…授業中ばかりではなく、授業前後における生活科や総合的な学習の時間のねらい達成のために行われる教師の手立て。
- (6) 「有機的なつながり」…トピック的な教師の働きかけではなく、日頃の子どもの見取りと直結した教師の働きかけとなるようにすること。

4 2年次の研究の視点

視点(1) 目標や育てたい力を明確にした単元構想と指導計画の作成

- ア 育みたい資質や能力を明確にし、それらを育むための単元構想の作成
- イ 体験活動や言語活動の必然性のある指導計画の作成

- 【共通ベース】○「単元構想の手順」をもとに作成する。
 ○総合学習においては、本校の育みたい資質や能力をもとに構想する。
 ○具体的な体験活動を起点とした活動構想や指導計画とする。
 ○「できる喜び」「分かる喜び」が子どもの内に生起するよう作成する。

視点(2) 子どもの気づきや学びの質を高めるための教材の開発（幼稚園との交流も含む）

- 手立て ア 様々な気づきや課題が生まれる地域素材の開発
- イ 子どもの発展的な活動が期待される教材の開発
- ウ 子どもの気づきや考えを整理したり高めたりするワークシートの形式や活用の工夫

- 【共通ベース】○教材開発に当たっては、「繰り返しかめられる」「目的意識を明確にもてる」「共有できる」の視点で検討する。
 ○生活科部会、総合学習部会内で多角的に教材の可能性を探り開発する。

視点(3) 子どもの見取りを生かした学び合いや伝え合いのある授業展開や指導の工夫

手立て ア 見取りを生かした、気付きや考えが生まれる課題提示や環境構成、発問の工夫

イ 見取りを生かした、課題意識や相手意識、目的意識をもたせる働きかけの工夫

ウ 見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネートの工夫




(発問、発言のつなぎ、切り返し、板書、待つ姿勢等)

【共通ベース】 ○子どもたちを常に、学びの共通ステージに立たせること。
○丁寧語に縛られることなく、相手に話しかけるような日常的な話し方での伝え合いをする。
○子どもの「～したい」必要感を見取ったり想定したりした上での働きかけをする。

5 授業の実際



(2) 第1学年1組

生活科「がっこう だいすき」 授業者：末永 久美

	本時のねらい 学校探検で見つけたお気に入りのものを伝えたり、友だちの発表を聞いて共感したりすることを通して、大野小のよさに気付くことができる。
	視点(2)ーウ 子どもの気付きや考えを整理したり高めたりするワークシートの形式や活用の工夫
	視点(3)ーウ 見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネートの工夫

(2) 第1学年2組

生活科「なつだ いっしょに あそぼうよ」 授業者：高野 千恵子

	本時のねらい 友だちと、水を使っての遊びを考えることを通して、遊びを工夫する楽しさに気付くことができる。
	視点(3)ーア 見取りを生かした、気付きや考えが生まれる課題提示や環境構成、発問の工夫
	視点(3)ーウ 見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネートの工夫

(3) 第2学年1組

生活科「大すき 大野」 授業者：鈴木 尉浩



本時のねらい

表現方法について話し合ったり、試したりすることを通して、伝える対象に思いを巡らせ、その対象に合った表現方法を考えることができる。

視点(3)ーイ

見取りを生かした、課題意識や相手意識、目的意識をもたせる働きかけの工夫



視点(3)ーウ

見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネート工夫

(4) 第2学年2組

生活科「大すき 大野」 授業者：村田 都子



本時のねらい

もう一度大野の人に会いたいという思いをもち、これまでのまち探検の経験をもとに、次の探検で何をしてくるかについて「ひと・もの・こと」の点から考えることができる。

視点(3)ーア

見取りを生かした、気づきや考えが生まれる問題提示や環境構成、発問の工夫



視点(3)ーウ

見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネート工夫

(5) 第3学年1組

総合学習「調べよう！見つけよう！大野たんけんたい」 授業者：佐藤 千紘



本時のねらい

生産者である渡部さんが、どのような思いをもって梨づくりに取り組んでいるのかを考える活動を通して、渡部さんの思いを自分の考えと重ねていくことができる。

視点(3)ーア

見取りを生かした、気づきや考えが生まれる課題提示や環境構成、発問の工夫

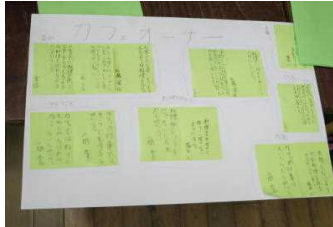


視点(2)ーウ

子どもの気付きや考えを整理したり高めたりするワークシートの形式や活用の工夫

(6) 第4学年1組

総合学習「未来の仕事 ちょうさ隊」 授業者：島 泉



本時のねらい

働く人からの手紙を読んで意見を交流しながら、共通点や相違点、さらに知りたいことを見つけたりして、働く人の仕事に対する思いに気付くことができる。



視点(3)ーア

見取りを生かした、気付きや考えが生まれる課題提示や環境構成、発問の工夫



視点(3)ーウ

見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネート工夫

(7) 第5学年1組

総合学習「食の未来探検隊」 授業者：河合 昇



本時のねらい

安全でおいしいお米をたくさん収穫するために、今後の管理で気をつけることについて考えることができる。

視点(2)ーイ

子どもの発展的な活動が期待される教材の開発




視点(3)ーア

見取りを生かした、気付きや考えが生まれる課題提示や環境構成、発問の工夫

(8) 第6学年1組

総合学習「これからの相馬の防災について考えよう」

授業者：伏見 哲矢

	本時のねらい 互い（話す側・聞く側）の考えを伝え合うことを通して、今後の取り組みへの改善を探ることができる。
	視点（2）ーア 様々な気づきや課題が生まれる地域素材の開発
	視点（3）ーウ 見取りを生かした、学び合いや伝え合いの場面でのコーディネート工夫

6 成果と課題

【成果】

1 視点1：「目標や育てたい力を明確にした単元構成と指導計画の作成」について

- 子どもの実態に合わせて、昨年度末に作成した単元構想を年度初めに検討し、改善を加えながら進めた。1年生から「ひと・もの・こと」にくり返しかわることを大事にし、子どもがじっくりたっぴりと学ぶことができ、子どもの気づきを高めることができた。各学年の実践に、空間的・時間的・内容的な広がりがもてる単元を構成することができた。
- 単元を構想する際、育みたい資質や能力を明確にして作成に取り組んできた。しかし、長いスパンで子どもの探究的な学習を保証できるように、途中で変更の必要性も出てきた。その都度、柔軟に変更を加えてきたため、学習への意欲や主体性の高まりが見られました。子どものもう一度考えてみよう、突き詰めていこうとする姿勢を大事にした探究の過程は、学びを通して子どもに自信を育てている。また、教師も子どもの学びに寄り添い、価値づけをし、子どもを支えたり、共に学んだりしていくという意識の高まりが、日々の授業の実践に表れてきている。

2 視点2：「子どもの気づきや学びの質を高めるための教材の開発」について

- 総合的な学習の時間では、地域の素材を生かし、様々な気づきを芽生えさせたり、引き出すことができた。3年生は、大野地区の農産物である梨のPR活動を行いたい、4年生は、1/2成人式を迎えるに当たり、身近な人々を招いて、未来の職業について探っていきたい、5年生は、社会科の発展、大野地域の環境を生かし、バケツ稲を育て、収穫し調理したい、6年生は、相馬市の防災から、大野地区の防災へと考えを広げ、できる取り組みを提案したいと意思を強くしていた。生活科でも伝承遊びや町探検において地域の人々と結びつくことができ、くり返しかわることで、幅が広がり、自分なりに考えも広まってきた。その後、新たな働きかけや表現をする姿へと変容が見られた。
- 自分の考えや思いを表現することが難しい低学年では、自己決定の意思表示にネームプレートを用いたり、共感・驚き・新たな認識を得た対象にカードを貼る活動を取り入れた。また、総合的な学習の時間では、付箋やワークシート、カードに自分の考えを書き、グループでの話し合い、全体での交流に生かす取り組みが増えてきている。

3 視点3：「子どもの見取りを生かした学び合いや伝え合いのある授業展開や指導の工夫」について

- 前時までの児童の内面や変化、気付きを見取り、文章整理し、意図的指名や授業展開に生かすことを目的として、見取り一覧を作成した。この見取りをもとに子どもたちに出合わせたい気付きを意図的に引き出すことができたり、子どものつぶやきに共感的に寄り添うことができたりした。
- 課題の提示については、実物の提示は視覚的に捉えやすいことはもちろん、写真の提示も、その写真に写っている児童の思いや活動の雰囲気想起でき、子どもを引きつけ、話したい欲求を高め有効だった。また、インタビュー映像を流す提示や身近に働く人からの手紙の提示により、調べたことや直接会って得た知識とインタビューや手紙の内容とを関連づける思考活動が見られた。
- グループでの話し合いでは、「○○ってどういうこと？」と教師が問い返すことで、子どもの言葉が出てきやすく、知っていることを教えたい、説明したくなる欲求が高まる働きかけとなった。また、その問いかけによって、子どもの経験や知識、思いなどがつながり、思考をゆさぶることができた。
- 共有を図る場面では、五感を大切にしているつぶやきを問い返したり、実演を行ったりしたことで、発表したい、見てほしい、聞いてほしいという子どもの気持ち、豊かな反応、言葉の広がりが見られた。「それってどういうことなの？」と全体に問いかけ、共有を図る、「○○○と比べてどうだった？」と投げかけ、考えさせる方法もあり、より深くふり返ったり、考えさせたりする働きかけとなった。
- 伝え合い場面での教師のコーディネートとして、とぼける、広げる、問いかける、つなぐ、掘り下げて根拠を聞くなどが考えられる。そのことによって、子どもから次の問いや次の課題が引き出すことができた。

【課題】

- 1 視点1：「目標や育てたい力を明確にした単元構成と指導計画の作成」について
 - 今年度の子どもの姿から、対象と繰り返しかかわることで思いを強くしていった。また、繰り返しの活動を保証することによって、試行錯誤しながら学ぶことができるようになり、学び方が分かり自信をもって主体的に学べるようになっていったことから、人とのかかわりを重視した活動の設定やテーマ性に貫かれた単元構想を創っていく必要がある。
- 2 視点2：「子どもの気付きや学びの質を高めるための教材の開発」について
 - 本研究も2年目となり大野地区や相馬市、相馬地方を地域素材の開発が進んでいる。更に、本物に触れる体験活動や体験と思考をつなぐ言語活動・書く活動を取り入れ、郷土への愛着を深めたり気付きの質を高めたりしていきたい。
- 3 視点3：「子どもの見取りを生かした学び合いや伝え合いのある授業展開や指導の工夫」について
 - 一人一人の思いをじっくり表出させて、全体での共有する時間の確保、子どもの発言への問い返し、子と子の主体的なやり取りを教師がコーディネートすることは、大切な教師の働きかけであり、今も課題として挙げらる。
 - 「生活・総合が楽しい。自分の言いたいことが言える。友だちが聞いてくれる。」という姿は、協同的な学びの本質であり、自分にはないもの見方や考え方に触れ、より多くの情報を得ることができる。相互に作用することから、個の追究を高めることにもなる。このような協同的な学びがある授業展開を工夫していきたい。
 - 今年度見取り一覧を作成し、今後も子どもの発想や行動の背景にある思いや願いを丁寧に見取り、子ども一人一人に応じた適切な支援やよさの伸長に努めなければならない必要性を感じている。来年度は、その研究を引き継ぎ指導と評価の一体化について研究していく必要があると考える。